

## 目標達成計画

作成日: 平成 27 年 2 月 2 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	日常的な外出支援については、利用者の重度化に伴い軽度の利用者の外出が日常的に支援できなくなっている。また職員の増員も困難なため、より外出の機会は制限されている。そのような中で短時間でも外へ出たり、少人数でも散歩へ行ったり、また季節の行事ではご家族やボラの協力を得て外出できるように工夫をしていきたい。	①重度の利用者も含め、全員で中庭へ出て外気に触れる。②歩行の安定している利用者を中心に、日常的に外出できるよう時間配分の工夫をする。③季節の行事ではご家族やボランティアの協力を得て外出できるようにする。	①厳冬期と猛暑期を除き、午前のおやつの時間を中庭で過ごす。②歩行の安定している利用者の方数人で、散歩や買い物に出かける。③春のお花見夏の花火、秋の紅葉や敬老会の作品展等にご家族やボランティアの協力を得て、出来るだけ多くの利用者が参加できるように努力する。(昨年と同様であるが今年も引き続き取り組んでいきたい)	12ヶ月
2	12	重度化した利用者や重度化への予備軍の利用者もおられることから、個々の利用者に適したケアを再度振り返り、個々人にあったケアを提供するように心がける。	①重度の利用者には安全で安楽なケアが提供できる。②重度化の予防には個々の利用者にあったケアを明確にし支援する。③重度化するに従い転倒等の事故も多くなるためヒヤリ・ハットの分析をして事故防止に努める。	①重度の利用者には安全で安楽な生活ができるように、具体的かつ詳細な介護計画を作成する②重度化の予防のためには、個々の利用者の残存能力や機能を十分に引き出せるような取り組みを具体的に介護計画に反映する。③ヒヤリ・ハットの集計・分析を職員全員で行い未然に事故防止ができるようにする。	12ヶ月
3	13	災害対策について、昼夜を問わず利用者が避難できる方法が十分でないため不安がある。夜間は1人勤務のためより不安はつもの。	①災害対策について全職員が災害時を想定して行動できるようにする。②近隣事業所との連携を深め避難訓練等ができるように努める。	①具体的な防災及び災害対策時のマニュアルを作成する。②近隣事業所との話し合いを行い連携を深めていく。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。